

ることが大事なのです。

では、どうも有難うございました。

（了）



信者のひろば

折り紙を通しての国際支援

（IARP 国際部）

倉谷 清美

宮澤雅子様（神社受付の机の上に、『ご自由にどうぞ』とのメッセージを添えて、折り紙作品を置いてくださる東京在住の信徒さん）に関する記事が、米国シカゴ界隈にある多くの病院や教会で読まれているニュースレターに掲載さ

れました。また、シカゴにある大きな病院から、宮澤様宛に、感謝状が届きましたので、信徒の皆様にご報告させていただきます。

折り紙による国際支援は、玉光神社信徒でもあるスザンヌ・マルチネスさん（以下、スザンヌ）に宮澤様を紹介させていただいたことに始まりました。まず、スザンヌのことを、簡単に紹介させていただきます。スザンヌは熱心なCIHS聴講生で、二〇〇六年に、CIHSの馬場先生引率の下に、他のCIHS学生と一緒に、宮司様のご指導を受けるために来日しました。その際、自身の帰依をかたちでも示したいと、入信させていただき、以降、小豆島御大祭には、必ず来日し、参拝させていただきます。彼女は、シカゴにある大きな病院（アドボケート・グッド・シェファード病院）（註）で、正規のトレーニンングを受けたチャプレンとして患者さんやその家族のケアにあたっています。

欧米では、チャプレンのことはよく知られていますが、日本では、まだ馴染みの薄い職業かもしれません。『病

院チャプレンとスピリチュアルケア』という本には、『:チャプレンとは、(大学・病院などの)施設付きの牧師、軍付きの(従軍)牧師、(刑務所の)教戒師のことを指す。:病院はある種のコミュニティであり、:そのような病院の中に、宗教的な役割を担ったチャプレンの活動を必要とするニーズが存在する。それもかつてのように宗教的儀礼を執行することだけではなく、むしろ患者や家族の苦しみや悩みに寄り添うという役割が求められている』と説明されています。この説明のように、死に直面している患者およびその家族に寄り添い、旅立ちの時に宗教的儀式を行うだけでなく、患者や家族を精神的に・心的に・霊的に支え、時には、十時間以上も、寄り添うこともあると聞いています。死は、何時訪れるか分かりませんので、夜中に電話が入ったり、早朝出かけたりすることもあるそうです。

スザンヌは、チャプレンとしての活動以外に、ロータリークラブの会員として、ガテマラのハリケーン被害からの復活や孤児の支援を行ったり、井戸を寄付するためにボリビアに行ったり、難民支援の活動もしていると聞いていま

たので、宮澤様の折り紙のことをスザンヌに話しましたところ、是非、戴きたいとのことでした。宮澤様も、「自分の作品が、神様のお役に立てただけなら:私も嬉しい」と喜んで、沢山の折り紙・水引作品を、スザンヌに寄贈してくださいました。昨年十月に、小豆島御大祭ご参拜のために、スザンヌが来日した際も、ダンボール箱一杯の作品を戴きました。その際、スザンヌが、「難民支援だけでなく、病院の患者さんやスタッフにも差し上げてよいですか」と宮澤様に伺いましたところ、宮澤様のお返事は、「スザンヌさんに差し上げたものですから、スザンヌさんがいいと思うように使ってください」でした。

今年の三月に東日本大震災が起きた際、グッド・シェファード病院でも、近隣教会の牧師さんや信徒さんが多く集まって、日本と被災された方々・そのご家族のために、祈りを捧げてくださったとのことでした。その際、病院内にある教会を、宮澤様の折り紙作品で飾って、皆で日本のことを思ってお祈りを捧げてくださったそうです。シカゴ在住の日本人家族も多数参加されたそうですが、皆さん、折り紙作品を手にして、日本のことを懐かしんでいらした

と聞きました。

宮澤様が、折り紙作品を通して、病院内の多くの患者さんにホリスティックな癒しと支えを与えてくださったことに対し、この度、病院長さんの署名入りの感謝状が交付されました。

グッド・シェファード病院は、七百名もの医者が所属する、最先端の医療を行う大きな医療グループに所属しています。その医療グループ内の病院や教会で広く読まれているニュースレターに、「回想……与えること……分かつこと」という題で、スザンヌが、宮澤様のことを記事にし、宮澤様の写真入りで、その記事が掲載されました。記事の内容は、宮澤様との出会い、折り紙とは……が書かれ、記事の最後は、「……折り紙作品を通して、喜びと思いやりを、皆さんと分かつことが宮澤様の願いです。これから、患者のケアにあたるチャプレンや牧師が、患者の皆様にも、直接、宮澤様の作品をお届けします。海を隔てた遠い国から、宮澤様という女性が、古くから伝わる折り紙に込めた愛と思いやりと『お互いに分かつ』という心で、私たちに繋いでくださいました」と締めくくられています。



宮澤さんの折り紙の作品

グッド・シェファード病院から交付されました感謝状と記事の原文・全訳は、宮澤様のご了解を戴き、玉光神社およびIARPのホームページで公開させていただいていますので、そちらをご覧ください。

宮澤様の折り紙・水引作品に関しましては、CIHSにも沢山戴き、それらの一部は校舎に飾られ、ご協力戴いた

方々へもプレゼントされていると伺っています。

【追伸】 今年、スザンヌだけでなく、宮司様の古くからのお弟子さんであり、陰ヨガを創設されたポール・グレイリー夫妻も、十月二十一日のお禊から、小豆島御大祭に参拝されます。後二名参拝させていただくかもしれません。どうぞ、信徒の皆様から、彼らに声をかけてあげてください。そして、繋がりを深めて戴ければ、この記事が、神様や皆様のお役に立つのではないかと思います。

【註】

Advocate Good Shepherd Hospital（アドボケート・グッド・シエファード病院）
シカゴにある最先端の医療を施す大きなアドボケート医療グループに所属する病院。Advocateとは「支援」を意味し、Good Shepherd は地名（イエス・キリストを意味し、全てを癒し・支えるという意味を持つ）。

可愛い折り紙や水引作品が海を渡って

——「すべてはたまたま」から——

（東京都杉並区）宮澤 雅子

はるか昔、保育園時代の記憶の彼方で眠っていた折り紙。新聞のチラシでたまたま目にした「折り紙無料体験教室」。懐かしく思い、試しに参加してみたところその楽しさに魅了され、その場ですぐ入会しました。約四年半前のことでしたでしょうか。

可愛らしい折り紙作品を皆様にも楽しんで戴ければと、神社受付の片隅に置かせていただくようになりました。それが、研究所国際部の倉谷先生のお目にたまたま止まり、外国の方々へ送る封書内と一緒にお入れ戴くよう



宮澤雅子さん

になりました。皆様もご存知のように、折り紙作品は軽
いし小さいし、ペチャンコになっても大丈夫。息を吹き
込めば、再び立体的にもなり：というお手軽なものです
から、郵送するには打ってつけのものでしょう。

それから程なくして、お宮の岩淵美代子様のお目にもた
またま止まり、「貴女、折り紙がお好きなようだから、水引
もお習いになってみたらどうでしょうか」とのお勧めがあ
りました。「エッ、水を引くって何？」程度の知識しか
ありませんでした、その頃は。

水引と言いますのは、手短に言えば、物を包む時の紐な
のですが、武家社会（特に室町時代から）の厳格な身分制
度の中で、礼儀作法の一環として用いられていました。奉
書紙で贈答品を包み、上下の身分差や品物の格により結び
方も様々な趣向が凝らされていたようです。また婚礼の
数々の結納品にも、目にもあでやかに芸術的に飾りつけら
れていたようです。寿には付きものの鶴や亀も水引で結
べるのです。当時の人々にとっては、水引が結べること
は必須の教養でもあったようです。今日、日常生活のす
べてが簡略化、スピード化していく中では、残念ながら目
にすることも少なくなりましたが、今でも長野県飯田市の

水引会館には往年の立派な結納品や、その他多くの作品が
陳列されていますので、機会がありましたらご覧になって
くださると良くご理解できると思います。その奉書での
包み方を「折形」と称するのですが、その後、庶民の遊び
となつて発展・伝承されてきたのが折り紙ということです。



宮澤さんの水引の作品

今回のことは、不遇な子供たちへの慰めと励ましのために折り紙作品をお配りしたいとのスザンヌさんのお気持ちを倉谷先生を通してお聞きし、それならば少しでもスザンヌさんのお手伝いができるのであればと、お引き受けいたしました。

やむを得ない理由から立場上恵まれない世界の子供さんたちのどの子にも公平に行き渡るよう、数だけは沢山に、という思いだけで、時間がある時にポツリポツリ作りだめた作品の数々でした。それでもいつの間にか小さいダンボール箱四つ程にもなりましたでしょうか。去年十月大祭直前に研究所にスザンヌさんがおいでになった時、倉谷先生の完璧な通訳のもと、私の気持ちを伝えて戴きました。大祭後スザンヌさんが帰国なさるにあたり、ご不便なくお持ち帰りになられるようにと、四つのバラバラな箱を大きな段ボール箱に一まとめにし、英語で宛名を書き、貼り、成田空港の手荷物カウンターに、直接、送ってくださいましたのは、すべて倉谷先生お一人のご尽力でした。私は大祭に参拝させていただいていましたので、何のお手伝いもできずじまいでしたから。

この度のことは、スザンヌさんの強い信念に基づいた実行力、行動力、そしてすべてをご配慮、お手続きくださいました倉谷先生、また水引という古式ゆかしい伝統文化があったことを知らずに長年日本人をしてきた私にアドバイスクださいました岩淵様方のお力なくしては、まとまり得なかったことです。私はと言いますと、そのような「時のめぐり合わせ」に、たまたまお引き合わせ戴いたということでしょう。私の意志や意図する外部のところできいていく物事の流れに沿ってきたら、結果がこうなったというところで、「あれよ、あれよ、どうしてこうなるの?」と、むしろ戸惑っているのが実情です…。

感謝状には私の名前が記されていますが、私を今日までお守り、お導きくださり、辛抱強く育んでくださいました玉光神社と研究所双方に戴いた感謝状と思っています。

これらのことを通して、異文化を知り合えること、分かち合えること、心をつなぎ合えることは、自分自身をも豊かにできることなのだとお教え戴きました。

玉光大神様、有難うございます。そして、皆様と共に歩ませていただける日々に感謝申し上げます。

【お宮からのお知らせ】

十月の行事

一日(土)	合同御祈願	午前十時
八日(土)	感謝祭	午前十時
九日(日)	C I H Sのお祈り	午前十時
十五日(土)	合同御祈願	午前十時
二十二日(土)	小豆島御本宮・前日祭	午後一時
二十三日(日)	小豆島御本宮・大祭	午前十時



二十五日(火) 妙光之神様のお祈り 午前十時

*ご参拝の折には必ず「名札」をご着用ください。「名札」はご入信時に配布していますが、紛失・破損の方は実費(二百円)にて作成いたしますので、社務所にお申し出ください。

*井の頭の神社では、二十三日午前十時より御神前にて略式のお祭りの形式で、『玉の光』を唱えお祈りをいたします。御本宮にお参りにならない方はご参拝ください。

*二十一〜二十三日 井の頭社務所は受付が不在となります。緊急の場合は、留守役の世話人、または小豆島御本宮社務所までご連絡ください。

御本宮・電話(0879)62-2169)

十月のお祝

井の頭神社 七日(金)・二十二日(土) 午前九時より
小豆島御本宮 二十一日(金) 午前九時〜午後四時

*お祭りの前日は、大神様の御神恩に感謝申し上げます、お禊をさせていただきます。どうぞご参拝ください。